

田んぼの学校～田植え編

～ 自然観察会

区 分：講師派遣

日 時：2023年5月21日(日)

場 所：南丹市園部町仁江

天 候：晴れ

主 催 者：宝酒造

参 加 者：15 家族

当会参加者：11 名



入学式を終えて、担当の指導員と自己紹介
ワクワクのはじまりです。

3年空けて対面での田んぼの学校です。雨が予想され、雨天対策の準備もしていましたが、予想は見事に外れ、好天の中再開することが出来ました。コロナの対策は今も引きずっていて、極力接触を避けることがベースになり、屋内での活動は最初の入学式のみです。入学式が終わると自分の班の参加者とともに外に出て、歩きながら自己紹介。参加者は8つの班に分かれ、それぞれに一人の指導員が付きまします。更に二班を一つのグループにして二人の指導員が担当し、同じ観察エリアを見ていくことになっています。



さあ、観察会に出発です！

観察時間は従来とは大幅に減って45分。指導員は一週前と当日の下見で確認した共通ポイントを抑えながら臨機応変に参加者への対応を行いました。



花が咲くカナメモチのお話を聞きました

フィールドは一週前の下見ではまだ水が入っておらず、アメンボウやカエルの数も少なかったのですが、田植えを前にして田んぼにも水が入ったので水生昆虫〈カイエビ、スジエビ？、ヒメアメンボ、マツモムシ、ガムシ〉やカエル〈シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル、アマガエル〉、ミズグモの仲間、トンボ類も多く見られました。当然、それらを狙ってヘビも現れました。湿地ではマムシ、田んぼの中を泳ぐヤマカカシ。そんな中、水の中の生き物を上手に採っているこどもも、勢い余って田んぼにはまるこどもらの姿が微笑ましい。3年間、再開を待ったこどももこうした中にいました。

いつものことながら畦や周辺の草地ではどこでも見られるような草本類が主役となっていました。とは言え、この時期それらは小さいながらも華やかな色で目を楽しませてくれました。ひときわ目立ったのがニワゼキショウ。



田んぼの中に何がいる？

これはお母さん達にもなかなかの人気でした。ニガナやタンポポ、ジシバリ、キツネノボタン、ウマノアシガタと黄色い花がよく目立ち観察対象に。

恒例のハルガヤの匂い、サンショウの匂い、シキミの匂いなどもしっかり試していました。

この時期のサンショウの実は辛く、しばらく舌がしびれてぼやく参加者も、一方いい香りを楽しむ家族も。



タンポポとニワゼキショウ



目をひく黄色い花



サンショウの実は辛いけど、いい香り…

湿地に沢山生えたイを使って、自分達の生活〈畳表〉と結びつけようと説明しているグループ。クモの巣の所では少し変わった巣を張ったゴミグモ、居室から出たり入ったりするコクサグモの動きなどにじっと見入る姿。この日最も目立ったノアザミを使って、送粉を巧みに行うしくみを観察している参加者の姿をプレスの人が撮っていました。彼らは撮影しながらそのしくみにいたく感心していました。参加の家族だけではなくスタッフにも植物の不思議を感じて貰えました。今日一日でいろんな自然を見たこどもたち、次回はどんな反応を示してくれるか楽しみです。〈清〉



ゴミグモ



いよいよ田植え！うまくできるかな？



コクサグモ



田んぼの学校 シンボル

「ケロツ田」も観察会に参加しました。



田植えの後は、みんなで振り返りをしました。